

# 大 ぞす

広島大学を卒業・修了後、各業界で活躍されている卒業生の方々に、  
現在のお仕事と大学時代を語っていただきました。



よねはら・りゅうた／山口県出身。2003年広島大学理学部化学科を卒業後、大学院理学研究科に進学し、数理分子生命学を専攻。2005年修了後、オタフクス株式会社に入社。製造や品質管理、経営企画など幅広い業務に従事後、現職。

大学院理学研究科※ 出身

米原 隆太 さん

オタフクス株式会社  
生産本部 本社工場 生産管理部  
生産管理課 課長

※ 現 大学院統合生命科学研究科

## 本社工場一番の要 全体を最適化

オタフクス生産本部 生産管理課は本社工場の一番の要といえます。工場の生産性や現場のものづくりの力を高め、いかに効率良く引き出せるかが問われます。具体的には需要予測、生産計画の立案を主業務に、営業からの依頼で原価見積作成、原料・資材の調達と受入、工場の生産性を上げるための生産実績の予実管理、ラベル印刷や工場消耗品の発注まで多岐にわたります。私は営業や生産といった部署間の調整役となったり、生産工程をマネジメントするなど現場が働きやすいよう環境を整える役割も担っています。

さらに部署の枠を越えあらゆる視点の意見を取り入れつつ「全体の最適化」を目

指して改善を図ることも求められます。役割の違いから生まれる意見の相違や矛盾を受け止めながら、なるべく全体が納得する着地点を探し続けることは、苦勞がある分この仕事の一番のやりがいでもあります。

## 研究経験を生かし 新価値創造へ

全体の最適化には、観察力や異変を察知する能力が必要です。これらの力は、寝食を忘れ研究に打ち込んだ学生時代に培われたと思います。ほかに文章を書く力や分かりやすく伝えるためのコミュニケーション能力、マネジメント力も仕事で大いに役立っています。

オタフクと言えばソースですが、私が入社を志望したきっかけは「飲用酢」で

した。理学部化学科でタンパク質の研究をしていたこともあり、就職先は製菓会社か飲料メーカーを希望していましたが、オタフクが飲用酢を作っていることから興味を持ち、食べるのが大好きだったこともあって入社を決めました。

今後は新しい価値を創り出す仕事、素材研究や商品開発をはじめ、新たな研究開発にも取り組んでみたいのです。

## 心に響いた人生の名言

就職が決まらず落ち込む私に対し「自分を信じとったら大丈夫!」と言い続けてくれた大学院の先輩がいました。前向きに考えることの大切さを教えてくれた広大の先輩に感謝です!